

特集

2030年ビジョン 実現に向けた 私たちのチャレンジ

～ 社会の変化に向けて提供していく新しい価値 ～

当社グループは2030年ビジョンの実現、また、2030年以降の持続的な成長に向けたさまざまなチャレンジにより、全社的な進化を図っています。

競争優位性のあるADC技術等を活用した革新的医薬品の創出や価値最大化により、患者さんにより良い人生をもたらす治療オプションを速やかに提供していくR&Dのチャレンジ、また、一人ひとりのLife Journeyに寄り添った最適なサービスを提供するHealthcare as a Service (HaaS) 社会の実現に向けたチャレンジ、そして、一人でも多くの世界中の患者さんへの貢献を目指す、真のグローバル企業に向けたチャレンジは、2030年ビジョン「サステナブルな社会の発展に貢献する先進的グローバルヘルスケアカンパニー」の実現とさらなる成長につながっています。

本特集では、社会の変化を踏まえ、新しい価値創造に向けた当社グループの3つのチャレンジとチャレンジを支える取り組みについてご説明します。

CHALLENGE 01

さらなる成長の柱の
見極めと実行
P23

製薬企業として長期的視点に立ち、がん領域でグローバルTop 10を目指す、当社のR&Dの成長戦略についてご説明します。具体的には、5つのDXd-ADCの価値を最大化し、革新的な医薬品の継続的な創出を目指す「5DXd-ADCs and Next wave」戦略に基づき、開発パイプラインを進捗させR&D戦略の深化を追求する取り組みを中心に紹介します。

CHALLENGE 02

Healthcare as a
Service (HaaS)の実現
による社会への貢献
P24

一人ひとりのLife Journeyに寄り添った最適なサービスを提供するHaaSが実現された社会に向けて、治療への貢献を主軸に健康促進～予防～予後ケアに亘りヘルスケアサービスを提供していくという、当社グループならではの新しい価値創造に向けた取り組みと目指す姿をご紹介します。

CHALLENGE 03

真のグローバル企業
に向けて
・グローバル組織
・One DS Cultureと
グローバル人材
P25

事業活動のグローバル化に伴った課題認識とともに、適宜・的確な意思決定や、より高度化・効率化された組織運営に資するグローバル体制の構築と、One DS Cultureの醸成をベースにしたグローバル人材の強化に向けた取り組みについてご紹介します。

CHALLENGE を支える第一三共の取り組み

S&Tの強みの強化に向けた変革

人材の強化

DX技術の深化

組織の進化

P27

3つのチャレンジを支え、当社グループ全体の取り組みを底上げする基盤の強化についてお示ししています。当社の価値創造の原動力であり、最大の強みであるサイエンス&テクノロジー (S&T) のさらなる強化に向けた変革の取り組みを、人材・技術・組織をテーマにご紹介します。

CHALLENGE 01

さらなる成長の柱の見極めと実行

MESSAGE



ヘッド オブ グローバル 研究開発
竹下 健一

がん領域でグローバルTop 10に入るという2030年ビジョンを実現するために、私たちはさらなる成長の柱を見極め、世界トップクラスのパイプラインを強化し、人材育成を推進していきます。当社のオンコロジーパイプラインは世界トップクラスであると自負しています。第一三共が生み出す革新的サイエンスの深さと広さを活かすために、グローバルな研究開発組織が一つのチームとなった、グローバルマインドセットを持った組織となり、私たちのサイエンス&テクノロジー (S&T) の成果をできるだけ早く世界中の患者さんにお届けしていきます。

2030年以降のさらなる成長の柱の見極めと戦略の展開・実行

第一三共グループは、がん領域グローバルTop 10の2030年ビジョン実現に向け、当社の強みでありイノベーションの源泉であるS&Tを最大限に活用、拡大させていきます。当社独自のDXd-ADCs技術から創製された5つのDXd-ADC (5DXd-ADCs)の最大化により、世界中のより多くの患者さんの人生を変える治療オプションを速やかに提供します。さらに将来の持続的成長に向け、競争優位性のあるADC技術を中心とした

多様なモダリティを駆使した創薬により、5DXd-ADCsを超える革新的な医薬品を継続して生み出し、世界中の患者さんに届けていくためにR&Dの成長戦略を構築し実行します。世界中の患者さんにより良い人生をもたらすイノベーションの源泉となるべく、グローバル展開の拡張性と環境面での課題に対応するアジリティ (俊敏性) を兼ね備えたR&Dモデルにより、当社グループの持続的な成長を実現します。

戦略と実行計画 (図1)

- 5つのDXd-ADCの価値を最大化し、次の柱となるオンコロジーパイプラインを確立するとともに、スペシャルティメディスン、ワクチンパイプラインの見極めと着実な展開を図り、「5DXd-ADCs and Next Wave」戦略に基づいた開発パイプラインの進捗によるR&D戦略の深化を追求します。
- 当社のS&Tを通じてより多くのがん患者さんの利益に貢献するために、5つのDXd-ADC及びその他がん領域のパイプラインの価値最大化に向け、Expand (拡大) 戦略、Extend (延伸) 戦略を展開していきます (図2)。Expand (拡大) 戦略により、1) 乳がんと肺がんにおけるDXd-ADC療法の確立、2) より早期のがん及び幅広いセグメントの患者層への拡大、3) アンメットメディカルニーズの高いその他のがん種への拡大を図ります。Extend (延伸) 戦略では、1) まずパイプラインにおける個々の薬剤及び薬剤候補品の科学的メリットを考慮してアンメットメディカルニーズへの対応を進めます。それに加えて、当社のエンハーツ®をはじめとするパイプラインの薬剤に

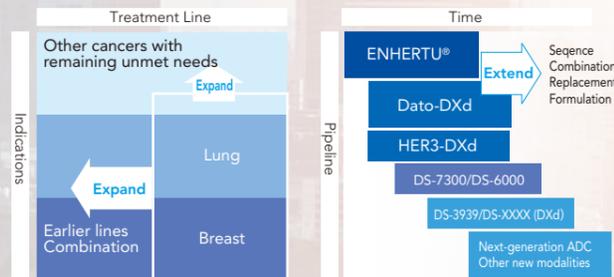
- よる特定のがんにおける優位性を考慮し、2) 新規自社アセットや次世代/新コンセプトADC、新規の併用療法など、DXd-ADC治療後の患者さんに対する有効な治療法の創出を目指します。
- スペシャルティメディスン領域、ワクチンにおいても、当社独自のモダリティ技術を軸とした成長戦略を構築し、実行していきます。
- こうした強固な開発パイプラインを速やかに製品化し患者さんに届けていくために、地域や機能を包含する一つのOne Global R&D組織として効率的・効果的なガバナンスを確立します。パイプラインの成長に応じて拡張しうるグローバル開発機能の基盤を構築し、ポスト5DXd-ADCs品目の育成を加速するためのグローバル初期開発・プレジジョンメディスン※機能の強化を進めます。オンコロジーとスペシャルティメディスン領域における探索研究のシナジー追求や研究におけるDXの取り組みにより、創薬研究機能を強化し創薬研究の生産性向上を図ります。

※ 遺伝子、環境、ライフスタイルの違いを考慮し、病気の予防と治療をカスタマイズする革新的なアプローチ

図1 「3 and Alpha」から「5DXd-ADCs and Next Wave」へ



図2 Expand (拡大) と Extend (延伸) 戦略



当社グループのパイプラインについて、詳しくはこちらへ

<https://www.daiichisankyo.co.jp/rd/pipeline/>

CHALLENGE 02

HaaSの実現による社会への貢献

MESSAGE



グローバルDX HaaS 企画部長
中島 伸

「患者さん、家族、社会を笑顔に」——これが私たちの目指す姿です。Patient Journey、さらには一人ひとりの一度しかないLife Journeyに真摯に寄り添い、予防医療や遠隔医療等を含む「Healthcare as a Service (HaaS)※1」の実現により、患者さんやそのご家族に新たな価値を提供していきます。医療とデジタルの融合といった環境変化や産業構造の変化の中で、HaaSの視点が社会課題の解決の糸口としてますます重要になってきました。中でも、がん患者さんの健康と幸福といったWell-Beingへの貢献は、がん領域を牽引する私たちの使命と考えています。今年度新設されたHaaS企画部は、研究、開発、マーケティング、営業、デジタル、医療機器などの、多様な専門家の集団です。当社の高いサイエンス力と築き上げてきた信頼により、患者さんが安心して利用できる革新的なサービス・ソリューションの創出に取り組んでいきます。

HaaSの実現に向けて社会に第一三共が提供する価値

医薬品の研究開発の進歩に伴い、がんの患者さんにとって希望のある製品が増えてきました。その一方で、周辺症状や生活の質 (QOL) における悩みは多く、患者さんが直面する疲労感、不快感などの身体的な課題、不安、ストレスなどの心理的な課題、社会参画、介護するご家族・介護者の悩みなどの経済的・社会的な課題にも対応することが急務となっています。これらの課題を解決し、少しでも患者さんのWell-Beingに貢献するためには、総合的なサポートやケアが求められます。

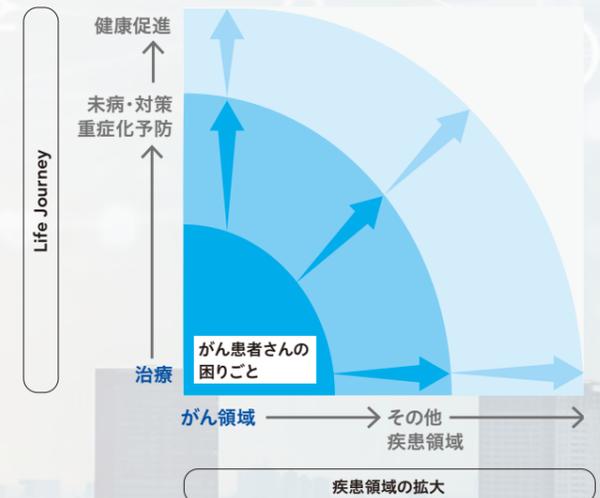
第一三共グループではHaaSの実現の一環としてトータルケアエコシステム※2/トータルケアプラットフォーム※3を構築し、これらの課題解決に取り組んでいきます。2022年度はトータルケアエコシステムの構築に向けて、グーグル合同会社、グーグル・クラウド・ジャパン合同会社、株式会社エクサウィザーズ、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社とプロジェクトを開始しました。また、医療機器プログラム (Software as a Medical Device: SaMD) を中心としたさまざまなデジタルソリューションの開発に取り組んでおり、がん治療をサポートするモバイルアプリでは、患者さんの声を製品開発に取り入れ、現在、臨床試験に向けた準備を進めています。将来的には、疾患領域を拡大するとともに、Patient JourneyからLife Journeyまでもカバーしていきます。

これらの取り組みを通じて一人ひとりの健康とWell-Beingの向上に貢献するとともに、社会保障費・医療資源の最適化、医療アクセスの拡大、健康寿命の延伸等の社会課題

を解決し、持続可能な社会の実現に向けて新たな価値を生み出し続けます。

- ※1 多様なデータや先進技術を活用し、一人ひとりに寄り添った最適な健康・医療サービスを提供すること
- ※2 患者さんや生活者一人ひとりの困りごとを解決しWell-Beingを実現することを目的として、健康・医療領域の企業・団体やデータプロバイダー・テクノロジー企業等が協働し、健康促進～予防～治療～予後ケアに亘るトータルケアを創出し、提供するエコシステム
- ※3 トータルケアエコシステムにおいて、個人の健康領域と医療領域のデータを共通IDで連携し、データ活用を可能とするIT基盤

第一三共のHaaSにおける提供価値の拡大イメージ



各種ソリューションから取得するデータを新規モダリティ/ソリューション開発に活用し、「Life Journey」と「疾患領域」を広げることでトータルケアを実現

CHALLENGE 03

真のグローバル企業に向けて

当社における「グローバル化」とは、エンハーツ®をはじめとする革新的な医薬品や治療ソリューションを世界中の人々にお届けしていくことです。真のグローバルヘルスケアカンパニーの実現に向け、より高度化・効率化された組織運営や適宜・的確な意思決定に資するグローバル体制を構築し、互いに協力・信頼し合いながらイノベティブな成果を生み出すグローバル人材の育成に取り組んでいきます。

グローバル組織の基盤強化

● OBUの運営基盤の強化

当社のオンコロジービジネスユニット(OBU)は、今後10年以上に亘って当社グループのグローバルな成長の主要な原動力となることを目指しています。

OBUの組織の壁を越えた協力体制や自信と信頼を生み出す文化は、ステークホルダーの多様なニーズへの対応が可能としています。オンコロジー領域が急速に進化していく中、新薬の上市からの学びを活かし、患者さんや社会全体からの視点やフィードバックを真剣に受け止め、データやエビデンスの創出はもちろん、より特異的な遺伝子検査や治療のパラダイムの提供に取り組んでいきます。

2023年度は、複数品目の上市に向けた準備を目標としています。また、エンハーツの強固な基盤と進捗をもとに、FLT3-ITD 変異陽性急性骨髄性白血病と診断された患者さんを対象としたヴァンフリタ®の日・米における一次治療の承認を取得しました。今後、DXd-ADCやその他のがん領域における開発候補品の開発や上市に備え、組織体制や専門性をさらに高めていきます。

● グローバルマネジメント体制

2025年度目標達成と2030年ビジョン実現に向けて、グループの総力を結集し、患者さんに新たな治療ソリューションを迅速に提供するため、機能や地域にまたがるグローバル組織体制を構築しています。4つの機能のユニット体制で、それぞれの専門分野におけるグローバル戦略の策定と執行を指揮し、事業運営効率の向上を目指しており、疾患領域の軸とした6つの事業ユニットが各領域、地域の戦略立案と執行を担っています。

2023年4月1日には、グローバルマネジメント体制を改定し、バイオロジクス・製薬技術・サプライチェーンユニットを統合したテクノロジーユニットの設置等、グローバル化に向けたさらなる基盤の強化を図りました。グローバルマネジメント体制におけるCxO※を新たに設定し、機能の最高責任者として、経営の視点でグループ全体の活動を俯瞰し、各機能領域に関する高度かつ包括的な専門性をもって、企業価値向上や経営課題に取り組んでいます。

グローバルマネジメント体制図についてはこちらへ

https://www.daichisankyo.co.jp/about_us/mission-strength/global_operations/

また、グループ経営の円滑な推進と企業としての成長をワンチームでサポートするため、コーポレートユニットを7つのグローバルコーポレート機能に再編し、グローバルでの変革(Project CONNECT)の取り組みを行っています。この変革は、2025年度末までの完了を目指しています。

※ Chief Strategy Officer (CSO)、Chief Digital Transformation Officer (CDXO)、Chief Human Resources Officer (CHRO)、General Counsel (GC)

● プロジェクト4D(Daiichi Sankyo Data-Driven Decision Making)

迅速かつ確かな意思決定を可能とするデータ駆動型経営の実現に向け、プロジェクト4Dを発足しました。このプロジェクトでは、ERP(Enterprise Resource Planning)システムの刷新を契機として、グローバルでのビジネスプロセスの標準化及びシステム統一と、それらを実現する新たなオペレーティングモデルの改革に取り組んでいます。2025年から2027年にかけて、日米欧のグループ会社におけるERPシステムのグローバル統合を段階的に進めていきます。

VOICE



James Felix
Vice President,
Information Technology
and Regional IT Head
Americas Daiichi Sankyo,
Inc.

グローバルビジネスへのシフトを踏まえ、グローバルでシームレスに連携可能なIT基盤が必要です。現在グローバルコミュニケーション&コラボレーションを強化する新たな環境を構築し、地域や部門間のより強固で一体感のある協業やさらなるシナジー創出を促進するC2プロジェクト(Global Communication Collaboration Project)を推進しています。第一三共グループの基盤を一つに統合し、利用ポリシーやルールを整備することで、共通の基盤上でシームレスなコミュニケーション及びコラボレーションが可能な環境を提供することを目指しています。また、異なる背景を持った人同士が一丸となり、相互に理解し合うことを可能にすることで、One DS Cultureの醸成はもちろん、業務推進のグローバル化が加速されると期待しています。

One DS Cultureの醸成とグローバル人材の育成

MESSAGE



CHRO
松本 高史

当社グループでは全世界で1万7千名以上の社員が働いています。リクシアナ®やエンハーツ、さらには開発中の製品群を世界中の患者さんにお届けするためには、バリューチェーンの全てにおいて社員がスムーズに連携し協働することが必要です。2030年ビジョン「サステナブルな社会の発展に貢献する先進的グローバルヘルスケアカンパニー」を実現し、真のグローバル企業へと進化するためには、組織体制のグローバル化のみならず、異なる文化や考え方を受け入れ、多様性を尊重しながら最大限パフォーマンスを発揮できるグローバル人材の育成が不可欠です。またそういった人材が自律的に成長し続け、互いに信頼し、いきいきと働ける企業文化の醸成と、組織を効果的に機能させるための人事基盤の構築も重要です。そうした背景を踏まえ、One DS Culture醸成に向けGlobal Culture Initiativeを推進するとともに、グローバルリーダー育成プログラムやグローバル共通の人事制度・人事情報システムの構築を進めています。引き続き多様な人材がグローバルに国や地域を超えて切磋琢磨し、信頼し、高め合い、イノベーションとシナジーを創出していきます。

● One DS Culture

当社グループは、グローバル規模の事業拡大を支える企業文化「One DS Culture」の醸成に取り組んでいます。伝統・強みを活かしながら当社が抱える課題を克服することによって、全ての社員が性別、国籍、文化の壁を越えていきいきと働ける職場を目指します。3つのCore Behaviorの理解と実践を通じ、世界中の社員がパーパス・ビジョン実現に向けて効果的に連携し、機能や地域を越えた信頼を構築することにより、患者さんのためのイノベーション創出につなげていきます。

▶ One DS Cultureの醸成について、詳しくはこちらへ P40

● エンゲージメントの改善

「One DS Culture」の醸成度合いや社員エンゲージメントを測るため、2021年度からグループ全社員を対象にしたグローバルエンゲージメントサーベイを実施しています。今年度は2回目の実施となりましたが、Core Behaviorに関連する全9問を含む20問においてスコアが改善しています。一方、「失敗から学ぶ」に関しては、スコアが2ポイント上昇したものの、ベンチマークとの差が大きいため、引き続き全社共通の課題として取り組みを継続していきます。

FY22グローバルエンゲージメントサーベイにおけるCore Behavior関連項目の改善結果

サーベイ参加状況



	カテゴリー	項目	FY21との比較
Core Behavior	Be Inclusive & Embrace Diversity	所属意識	+1
		意見の尊重	+3
		機会均等	+5
	Collaborate & Trust	チームへの信頼	+2
		透明性	+3
	Develop & Grow	コラボレーション	+1
失敗から学ぶ		+2	
フィードバック		+5	
		成長への機会	+4

● グローバル共通の人材育成

グローバルエンゲージメントサーベイ項目の中でも、マテリアリティKPIとしてスコアをモニタリングしているのが「成長への機会」という項目で、学び・成長する機会を重要視しています。グローバル共通の人材育成施策として、LinkedIn LearningというEラーニングのプラットフォームの全社員への提供を2023年度より開始し、誰でもいつでもどこでも学ぶことができる環境を整備しています。

● インクルージョン&ダイバーシティ(I&D)

国籍・人種・性別・年齢・障がいなどの属性面に加え、考え方・価値観・ライフスタイルなども含んだ多様な社員が共存し、その全ての社員が受け入れられ、最大限に実力を発揮することも、One DS Culture醸成やイノベーション創出につながると考えています。2022年3月の国際女性デーには「Global I&D Statement」を発表し、社内外に当社グループのI&Dに対する姿勢や考え方を明示し、多様性のあるインクルーシブな組織づくりに注力しています。

▶ I&Dについて、詳しくはこちらへ P81

VOICE



常勤監査役
荒井 美由紀

現在、第一三共はかつてないほどの飛躍が期待できるステージにあります。2030年ビジョンを実現し、当社のパーパスに照らして、真のグローバル企業になるためには、社員の多様性をイノベーションにつなげていくことが肝要です。これまでの自身の経験からも、いろいろな人の視点、知識や経験が成功には不可欠であることを痛感しており、それがI&Dの本質だと考えています。女性活躍推進の面ではグローバル全体の2022年度女性管理職比率は33%ですが、国・地域により大きな偏りがあり、また、数値目標が達成できればよいというものでもありません。国籍、人種、年齢、性別等を問わず、全ての人材が自分らしく個々の強みを十分に発揮でき、次世代を担う若手もチャレンジしたいと思える多様性のある環境づくりを監査役立場からも後押しできればと思います。

S&Tの強みの強化に向けた変革

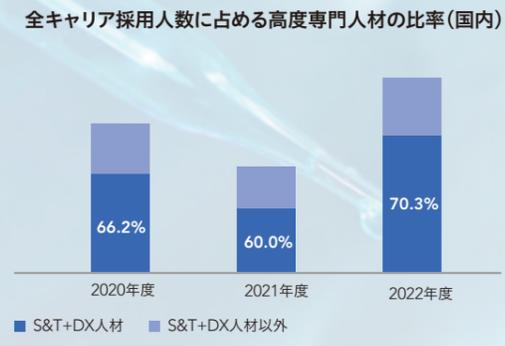
当社グループの価値創造の源泉であり、最大の強みであるサイエンス&テクノロジー(S&T)のさらなる強化に向け、「人材」「技術」「組織」を起点とする変革をご紹介します。



変革 01 人材の強化

S&Tを支える高度専門人材の積極的な獲得

S&Tの強みをさらに強化していくため、人材育成だけでなく外部の優れた人材の獲得にも力を入れています。特に創薬研究や製薬技術などで活躍するS&T人材、全社的なデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進するためのDX人材^{※1}の獲得には近年注力をしています。2020年度以降、全キャリア採用人数に占めるS&T人材及びDX人材の合計人数は6〜7割に達しており、グローバルでも同様です。今後もS&Tの強みをさらに高めるため、多様な採用チャネルを駆使することで優秀人材の獲得に力を入れていきます。



※1 当社グループの各バリューチェーンにおけるビジネス要件とデジタル・データの双方を理解し、変革マインドを持つ人材
▶ 人材を含む人的資本について、詳しくはこちらへ P19

変革 02 DX技術の深化

当社グループの2030年ビジョン実現に向け、2030 DXビジョンを「先進的グローバルヘルスカンパニーとして、データとデジタル技術を駆使してヘルスケア変革に貢献する」とし、DXを推進しています。当社グループのDXは、中長期で価値を創出し続けるための一元的なDX推進体制、統合データ分析基盤(IDAP)や人材の多様性を特徴としています。この特徴を活かし、先進デジタル技術とデータの利活用をさらに促進し、データ駆動型創薬や人工知能(AI)等の応用による研究開発の加速化・自動化といった既存ビジネスモデルの深化を進めていきます。DX推進組織発足以来の実績については本年5月にDX銘柄2023^{※2}選定という形で評価されました。



※2 東京証券取引所に上場している企業の中から、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が現れている企業を選定するもの

先進デジタル技術とデータ利活用による全社業務変革

環境変化に柔軟に対応するために先進デジタル技術とデータの利活用においては、既存のシステムや業務プロセスの変革及び変革風土醸成が必要です。DX推進機能は当社事業への導入効果が高い先進デジタル技術の探索と評価を行い、

部門または全社に跨る課題や変革ニーズに対して技術のマッチングを行っています。直近では、ChatGPTなどの「生成AI」を含むクラウドサービスや「メタバース」などの先進デジタル技術の活用推進施策を全社的に展開しています。生成AIに

関しては今年度より情報管理やセキュリティのリスク対策が施された社内独自環境を稼働させ、社内での活用を進めています。また、メタバースは活用体験を通して、業務利活用につ

なげるアイデアの創出・具現化も図っており、社員個人を起点としたDX推進やDX推進風土醸成につながることが期待されます。

データ駆動型創薬・育薬、AI等の応用による研究開発の加速化・自動化

AIを活用した化合物設計やプロパティ予測等による成功確率の高い新薬候補の発見や創薬プロセスの加速化、安全性情報モニタリングの他、Real World Data (RWD)の活用を行っています。RWDの分析から得られるReal World Evidence (RWE)^{※3}を5つのADCをはじめとするがん領域の医薬品承認申請、治療実態の把握や費用効果分析に活用し

ています。また、臨床試験の作業効率改善に向けて、AI技術を用いてプロトコル逸脱区分を自動判別する取り組みを進めています。これらは効率的で迅速な臨床開発を促進し、医薬品の早期承認や治療オプションの早期提供に貢献します。

▶ がん領域におけるIDAPの活用については、こちらへ P34
※3 Real World Data(さまざまなデータソースから日常的に収集される患者の健康状態及びまたは医療の提供に関するデータ)分析から得られた臨床エビデンス

変革 03 組織の進化

MESSAGE



テクノロジーユニット長 柏瀬 裕人

第一三共のプレゼンスが増しているオンコロジー領域は、初回申請後も多くの臨床試験が実施されるため、治験薬と商用製品の生産が並行して進行します。さらに、治験で良好な結果が得られると飛躍的に需要予測が大きくなり、増産に向けたスケールアップ・製造サイト追加が頻発します。こうした変化の中、バイオロジクス/製薬技術(CMC)/サプライチェーンの3ユニットは互いに協力し、大きな成功を収めてきた一方、ユニット間での責任範囲の曖昧化や重複、非効率な業務プロセスなど、全体最適化の課題が生じてきました。

そこで、初期開発段階から市販後までの技術開発や生産、供給マネジメントを一元化することにより、能動的かつ柔軟な意思決定を実現する、3ユニットを統合したテクノロジーユニットの創設を決めました。第一三共のS&Tの一翼を担うCMC研究機能強化はもちろんのこと、5ヵ国約4,000人で構成されるグローバル組織という強みを活かした人材育成・輩出への期待にも応えてまいります。

世界中の患者さんへの貢献に向けたテクノロジーユニットの挑戦

テクノロジーユニットは、従来のバイオロジクス、CMC及びサプライチェーンの3つのユニットの統合により2023年4月に設立された機能ユニットです。医薬品の製造技術・製法開発から製造・供給まで幅広い業務範囲を担当し、製品がその使命を終えるまで一貫した技術・生産マネジメントを行うことで、グローバルでの治験薬・商用製品の安定供給確保、継続的な原価低減、新しいモダリティ開発への柔軟な対応、及び技術に基づく新規ビジネス創出等に取り組みます。

テクノロジーユニットの2030年ビジョンは「ヘルスケアの未来を創造するグローバルテクノロジーユニット」です。このビジョンには5つの思い・志が込められています。

- ① 既存概念にとらわれない柔軟なマインドセットでの挑戦
 - ② 未来志向の技術戦略の探求と多様な先進技術の具現化
 - ③ 技術・デジタル・アセットを組み合わせたアイデアと戦略による事業強化・創出
 - ④ 環境変化に能動的かつしなやかに対応する治験から商用まで一体となったグローバルマネジメント組織の構築
 - ⑤ バリューチェーン全体の視点を持つ人材の育成とグローバルリーダーの継続的輩出
- これまでの組織の枠を超えて連携をより深め、融合し、ビジョンと思い・志の実現を通じて、当社の革新的な医薬ソリューションを世界中の患者さんのもとへ早く確実にお届けすることに貢献していきます。